

核兵器禁止条約に世界最初の被爆国として条約参加を求める意見書(案)

日本は、世界最初の戦争被爆国であり、核兵器によって多くの人命を失った国です。

今回、国連会議で、核兵器禁止条約が採択された背景には、世界最初の被爆国である我が国の被爆者の命がけの核兵器廃絶の運動と、長年にわたる核兵器の非人道性、違法性への告発があったことも大きな要因の一つです。

国連会議では、こうした運動とは逆行した日本政府の態度に、多くの国から失望と抗議の声が寄せられています。国連の、日本政府の席には、「あなたがここにいてくれたら」とのメッセージの書き込まれた折り鶴が二度にわたっておかれていました。

「人類と核兵器は共存できない」核兵器禁止条約は、まさにこの願いの体現であり、世界の3分の2近くの122の国が賛同して採択されたのもこの思いからです。

いま、世界平和とともに日本自身の平和を守るためにも、自らの意思をもって、そのために行動しなければならないと思います。

いつまでも、アメリカの核の傘の下で、アメリカ頼みの力の均衡による「平和」に身をゆだねることは、かえって危険です。今、国際的には、こうした軍事力を背景とした軍事ブロック中心の流れから、平和への話し合いを中心とした友好協力条約締結への流れが主流となっています。

核兵器禁止条約の署名は、国連本部において9月20日からすべての国に対して開放されています。日本政府の署名はまだ間に合います。

摂津市は、「憲法を守り人間を尊重する平和都市宣言」で、非核・平和を訴え、この地球から核兵器をなくし、人間としてともに生きる喜びがあふれる社会の実現に積極的に取り組むことを決意しました。

よって本市議会は、政府が国連核兵器禁止条約に一日も早く署名・批准をすることを強く求めます。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

2017年 9月 日
摂津市議会

(日本共産党提出)